

決算の認定



毎年10月の第1日曜日に開催される青空市

歳入

市税 48億1979万5430円

当初予算より収納率が伸びているが、景気が上向いたという認識か。

問 個人は0・52%の伸び、法人は滞納繰越が増えたため0・2%のマイナスである。ただし、調停額で見ると個人、法人ともに伸びており、緩やかな景気回復が一つの要因となっている。また企業での前年対比は、製造業4・8%、金融・保険業26・9%、宿泊業・飲食サービス業52・4%の伸びである。

ふるさと燕応援寄附金 5億8579万円

「ふるさと納税」で金額が大幅に伸びた要因は。

答 当初予算では見込み額1億3200万円、返礼品「33品目」であった。年度途中から食品等の追加を含め、「133品目」へ増えたことから約6億円と大きく増加した。

広報購読料について 31万6250円

問 新潟県人会への広報頒布だが、年間何人に頒布して、購読料は幾らなのか。本市にいろいろな面で貢献しているので無償配布はできないのか。

答 故郷を知る唯一の媒体であり、211人の方に年間1500円で送付している。これからも実費をいただくということを進めていきたい。

歳出

民生費 家庭児童相談研修会負担金 19万円

問 一昨年、本市において児童殺害の傷ましい事件があったが、家庭児童相談員の研修体制は充実しているのか。

答 県主催や児童相談所で開催されるものもあるが、市独自の研修も行っている。中には、新大教授の専門的な講演会やケース検討会を開いて勉強しているが、これらの負担金である。

広島平和記念式典派遣事業 53万1743円

問 中学生5人を派遣して平和について学んできたが、今後も継続する中で、派遣の増員や交通手段に工夫ができないか。



原爆ドーム前にて

答 増員したいと考えているが、宿舍の手配ができない。交通手段について片道を飛行機とも考えたが、時間比較して大差がなかったため、今回も同じ新幹線とした。

農林水産業費
チャレンジ・ファーマー支援事業 280万円

問 農産物の付加価値向上や生産拡大に向けた平成27年度からの新規事業だが、予算額800万円に対して執行額が少ない。制度運営について伺う。

答 集落での説明会や農家などで呼びかけたが、同時期に国の補正予算でコスト低減事業があり、利用が少なかった。今後、若手農業者支援事業参加者への呼びかけや農工商連携で新規事業等、制度が幅広く活用されるよう周知を図る。



表参道・新潟館ネスバス

商工費

「金属酒器乾杯運動」普及事業 524万円

問 地方活性・地域住民生活等緊急支援交付金1000万円を財源とした事業であった。PRのためWebコンテンツ等作成料300万円を除いた予算700万円が、金属酒器購入補助費に充てられたが、最終的に、交付額が224万円で執行率は32%となっている。これは失敗と言えるのではないか。

答 乾杯運動協力店舗は26店舗、販売個数は

1580個であった。残った約476万円は不用額として返還する。事業の失敗とも受け取られるが、今後の販売推進活動へ広がりを見込むものである。

土木費

空き家緊急修繕等委託料 271万8000円

問 場所はどこか、その修繕内容を伺う。

答 大曲にある南楽新館の外壁落下危険防止のため、外部シート貼り業務委託料で199万8000円。

また吉田東町では新潟総菜の外壁撤去業務委託料で72万円である。

総務費

まちづくり協議会支援事業 1203万7000円

問 13の協議会に対して財政支援を行っている。支援額に差があるが、その算定方法を伺う。

答 運営補助と事業補助とに区分され、それぞれ均等割、世帯割で算出しそれぞれを合算する。

通話録音装置購入費 49万4000円

問 モニター募集に対して、何台の申し込みであったのか。

答 55台のうち、37台貸与している。残余の台数は、残りの台数のほか、公共施設や包括支援センターで募集チラシを配布してもらうことや、自治会長、民生児童委員さんを通じて、周知を図っていく。

適応指導教室事業 677万円

問 指導員と子どもたちの人数は3地域それぞれ何人か。また、交流などは行なっているのか。

答 指導員は燕2人、吉田、分水各1人、中学生では燕14人、吉田3人、分水1人、小学生では吉田1人、分水1人の児童生徒が通っている。交流企画としてパーベキューや水辺での活動などを実施している。



まちづくり協議会運動会